

文教住宅都市としての 学生のすまい ワークショップ

学生

西宮市

専門家



ニュース第2号

西宮市すまいづくり推進課発行 2014年12月

第2回 『文教住宅都市としての学生のすまいワークショップ』を行いました！

今回は、前回意見交換した「してみたいこと（夢・希望）を実現するための暮らし方と住まいのかたち」をもとに、ワークショップに参加している大学生が興味のあるテーマに分かれて、大学生が夢や希望を実現するための暮らしや住まい方の提案について議論しました。

ワークショップメンバー：NPO関係者2名、学識経験者（近畿大学）1名、西宮市内不動産事業者2名、シェアハウス企画運営事業者1名、大学生（留学生含む）16名、ファシリテーター（株式会社地域計画建築研究所）3名

済

学生WS
10月4日

してみたいこと（夢・希望）
を実現するための暮らし方と
住まいのかたち

学生WS
11月15日

私たちが考える西宮市での暮
らしと住まい方の提案を作成

学生WS
12月6日

1・2回目で考えたことをさら
に深め、最終回に向けて提案
をまとめる

専門家×学生WS
1月10日

学生による提案発表と企画の
実現性を高めるための専門家
を中心とした提案まとめ

第2回ワークショップのプログラム

日時 2014年11月15日（土）14時～17時
場所 西宮市役所東館7階701会議室

- | | | |
|--------|---|-------------|
| プログラム① | はじめに | 14:00～14:10 |
| プログラム② | アンケート結果、ヒアリング結果報告 | 14:10～14:25 |
| | ・西宮市内にある大学で学ぶ学生への「住まい方」に関するアンケート結果 ・西宮市内の大学や不動産会社等へのヒアリング結果 | |
| プログラム③ | 話し合いに向けてのウォーミングアップ | 14:25～14:55 |
| プログラム④ | 「私たちが考える西宮市での暮らしと住まい方」 | 14:55～16:55 |
| | ・提示したテーマ1～4の中で興味のある分野ごとに参加者が分かれて、議論を行い、班毎に発表を行いました。 (出て来た意見は2～3頁を参照) | |
| プログラム⑤ | 専門家からのコメント・アドバイス | 16:55～17:00 |

コラム 「西宮てくてく・いいところ発見ツアー」を行いました！

第2回ワークショップが始まる前に、西宮市のまちを知るため「西宮てくてく・いいところ発見ツアー」を行いました。

コートを着て歩くには暑いくらいの晴天の中、西宮神社→酒蔵通り→臨港線→白鹿クラシックス→宮水発祥の地を、約1時間かけて歩いてまわりました。

当日は西宮神社で七五三が行われていたり、音楽演奏会が行われていたり、穏やかな西宮の様子を伺うことができました。

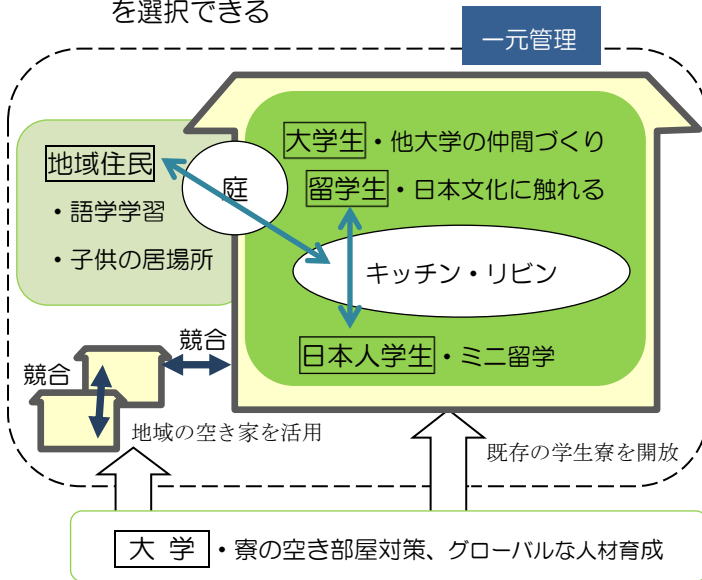


1 班で話し合った内容

テーマ1 語学習得などグローバルを意識した暮らし・住まい方
「世界のゆとり世代の人生に力を」

内容

- 大学の寮や地域の空き家を活用した、異文化交流のできる学生のすまい
- 留学生を含む大学生が大学を越えて自由にすまいを選択できる



ワークショップの様子

実施主体

- 留学生にとって安心感のある大学を主体とする。

活用資源

- 各大学の寮
- 不動産に問い合わせ、地域の空き物件を探す。
- 国際交流センターにソフト面の支援をしてもらう。

運営方法

- 日本人大学生による自主的な管理をめざす。
- 家庭教師などの斡旋を通して支援企業を探す。
- 地域の協力を得る。

参加者

- 留学生
- 異文化交流を求める日本人大学生
- 近隣住民

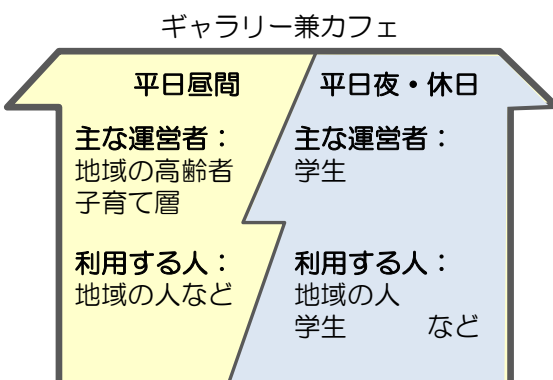
2 班で話し合った内容

テーマ2 アートや音楽などの趣味を通して人とつながる創作・発表の場がある暮らし・住まい方
「学生のコミュニティを広げる」

「学生のコミュニティを広げる」

内容

- 空き家等の空間を活用して、趣味や大学の成果物発表の場となるギャラリーを学生が主体となって運営する。
- 多くの人が気楽に集まりつながりづくりが行えるようにカフェ機能も持たせる
- 発表の場を設けることで創作意欲の増幅を図る
- また、地域の人と連携して経営することで、地域の高齢者等の居場所づくりにつながることを期待する



ワークショップの様子

実施主体

- 学生が主体となり、自治会や行政の協力のもと実施する。

活用資源

- 空き家(住宅地付近か大学近辺か)
- 空き店舗

運営方法

- 物件決定後、コンペを行う。
- 学生と地域が連携し改修作業を行う。
- 学生と地域住民で日時を分担し、運営を行う。

資金調達

- 自治会に一部補助をお願いする。
- 売り上げの一部で返金する。
- 広告付きの情報マップを作成し、広告料を企業や店舗から集める。

3 班で話し合った内容



ワークショップの様子

テーマ3 地域の人と繋がりがあがる暮らし・住まい方

「学生と西宮の人が協力しあえるまち」

内容

- ・高齢化が進む地域に学生が暮らし、繋がりのある暮らし・住まい方を目指す。
- ・学生と地域住民、お互いのニーズ、できることに着目して、それらを繋がりのある暮らし・住まい方に活かしたい。
- ・具体的にどのような地域を想定しているのか明確にしたい。アドバイザーからは「商店街をターゲットにすることもよいのでは」といった意見があった。

取組

- 取組み1 脱コンビニ弁当（農業や料理を教わって食生活を豊かに）
- 取組み2 住民として地域行事を盛り上げよう（学生が地域行事に参加する、支える）
- 取組み3 学生のITスキルで地域をつなげよう（SNS、掲示板、広告、ブログ）

活用資源

地域の空き家
商店街
各家庭の不用品
大学の施設
若い力を求めている農家

TAKE

地域住民にしてほしいこと

- 料理 下宿生に料理を教えてほしい。手料理が食べたい。
- 地域の魅力紹介 地域の歴史を教えてほしい。すてきな場所、お店を教えてほしい。
- 居場所提供 学生の居場所を提供してほしい（空き家の下宿、地域の集会所、公園など）

GIVE

学生と地域住民と一緒にできること

- 人がつながるイベント お祭り、運動会、子ども会のハロウィンに学生も参加して盛り上げる。
- 見守り ひとり暮らしの高齢者や学生がお互いに見守りをする。
- おすそわけ 地域住民と学生がおすそわけの気持ちで生活する。

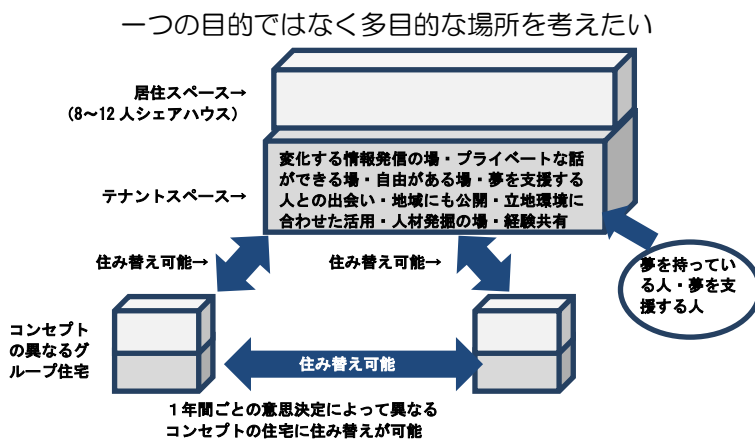
学生が地域でできること

- パソコン、携帯 使い方を教えることができる。
- 力仕事、お手伝い ひとり暮らしの方のお手伝いができる。
- 車の運転 高齢者の送迎ができる。
- 孫のように その他、地域で暮らす孫のような存在になれる。

4 班で話し合った内容

テーマ4 自己実現や夢の実現のために仲間と出会える暮らし・住まい方

「アクションをしたい人が集まることで、起きることがある」



ワークショップの様子

実施主体

- ・住宅のオーナーは大学（大学の資金による整備）
- ・運営は学生による実行委員会

運営方法

- ・ハイツ形式のシェアハウス（8~12人）。1階には地域にも開かれたスペース
- ・テナントスペースの管理運営やイベント開催は実行委員会でルールを決めて実施。維持費用は基本的に入居者の負担（共益費）。
- ・西宮市内の同様の住宅間に住み替えできる仕組み

資金調達

- ・インシャルコスト：西宮市内の大学からの出資
- ・ランニングコスト：入居者からの家賃収入、OB・OGからの出資、テナントスペースの利用料やイベント参加費など

プログラム② アンケート結果、ヒアリング結果報告

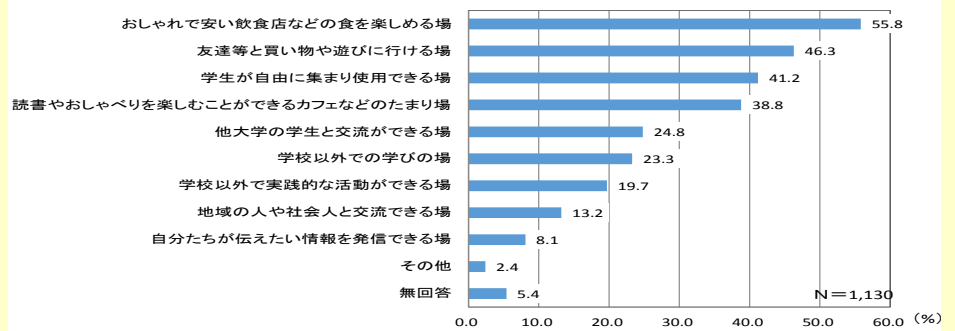
アンケート調査は平成 26 年 9 月～10 月にかけて、西宮市内にある 9 大学で学ぶ学生を対象に行いました。

◆回答者の「住まい方の現状」について

- ・回答者の 4 割は西宮に在住で、残りの 6 割は西宮市外在住です。
- ・回答者の 6 割強は実家から通学しており、残りの 3 割強の学生は下宿や学生寮に住んでいます。

◆必要な場所や機会について

- ・大学生にとって西宮市がより魅力的なまちになるために必要な場所として、食が楽しめる場や、友達と遊べる場が必要と回答した割合が高くなっています。



ヒアリング調査は大学や不動産会社等に行いました。

●大学

◆学生確保につながる学生寮

- ・安全、経済的、食事付き、見守りありなどが評価されており、学生寮のニーズは高い。
- ・学生確保につながる学生寮を大学は重視している。

◆取り組んでみたいこと

- ・大学寮を拠点に地域活動に参加
防犯活動、農家と食の連携
空き家に住んでまちづくりに参加
- ・地域とつながる発表交流の場やシェアハウスを

●大学

◆西宮は学生が住みにくいまち？

- ・家賃、物価高、留学生の保証人確保が難しいなどの問題がある。
- ◆求められている生活サポート
・電話相談や病院紹介などの生活サポートを行う事業者もある。

プログラム⑤ 専門家からのコメント・アドバイス

ワークショップを重ねるごとに、学生と自身の考え方の違いを感じます。学生は大家さんがいてほしい・手料理が食べたいなど、地域の人との関わりを求めているように感じました。留学の時にやるホームステイを国内で行うなど、おもしろいアイデアが出てくるので次回も楽しみにしています。



不動産業者

西宮はとても積極的な高齢者の方が多く住んでいるまちです。そのような人たちが「さあ、〇〇に行こう」と思えるような場所ができれば良いと思います。学生たちが、どれほど具体的に考えてくれるのが楽しみです。



NPO 関係者

アイデア出しの価値について考えることが大切です。このワークショップは「考える場」の一つとしてとても貴重といえます。もっと楽しんで、たくさんアイデアを出しましょう。



シェアハウス企画運営事業者

大学生には小学校区や自治会のように基盤となるエリアがありません。自らがエリアを設定すると、その中でお金や労働を媒体として、モノや情報の交換が生まれます。このような仕組みを検討を重ねていくことで現実味を帯びるようになります。また、私は、学生は投資(支援)されるべき対象であると思っています。投資を受けた学生たちはもちろんリターンをしなければなりません、そのリターンはお金だけではなく、学生ならではのリターン(アイデア出しなど)もあるのではないかと考えています。



学識経験者

第3回文教住宅都市としての学生のすまいワークショップ

日時 平成 26 年 12 月 6 日 (土) 午後 14:00～

場所 西宮市役所職員会館

テーマ 学生WS ～1・2 回目で考えたことをさらに深め、最終回に向けて提案をまとめる～